

ご 挨拶



第4回日本糖尿病理学療法学会学術集会長
横地 正裕（三仁会あさひ病院）

本年5月12日（金）から14日（日）にかけて、千葉の幕張メッセ国際会議場などを中心に第52回日本理学療法学会大会が開催されます。本大会は最後の連合大会であり、第4回日本糖尿病理学療法学会学術集会もその中で開催されます。今回このページをお借りし、集会長として一言皆様にご挨拶を申し上げます。

現在、糖尿病につきましては、糖尿病と癌、認知症、骨粗鬆症との関連なども解明されてきて、日々研究は進歩しております。理学療法関連分野においても、糖尿病患者は早期に筋力低下が起こること、神経障害とバランス機能障害の関係、高血糖の持続による軟部組織の伸張性低下が引き起こす関節可動域障害など、様々な病態の特徴が解明されてきています。しかし残念ながら、糖尿病患者数は、一時の勢いはないものの、まだ増加の一端をたどっています。当然のことながら、重症化していく患者も後を絶ちません。この状況にストップをかけていくには、やはりただ病態の解明をするだけではなく、その研究結果に基づき、一次予防、二次予防、三次予防において私たちがより有効性のある介入法を提示していかなければならないと思います。

その第一歩となりますように願いを込めて、本学術集会のテーマを、「糖尿病に対する理学療法の発展を目指して～臨床介入研究最前線～」といたしました。そして、そのメインとして、シンポジウム「やればできる!! 糖尿病の理学療法介入研究」を企画いたしました。本シンポジウムでは、糖尿病理学療法の研究において最前線で頑張ってみえる4人の先生方をお招きしまして、その研究内容についてのプレゼンテーションをしていただくとともに、日常の臨床介入研究の実践においてヒントとなるようなことを中心に、ディスカッションをしてゆきたいと思います。その他にも教育講演として、田村好史先生からは「糖尿病・運動療法のトピックスと将来展望」を、菊池守先生と土田博光先生からは「糖尿病足病変と重症下肢虚血に対する治療とリハビリテーション」を、坂根直樹先生からは「糖尿病理学療法研究のススメ はじめの一步：研究デザイン、上手なアンケートの作り方と統計解析」をそれぞれテーマとしてお話をさせていただきます。

本学術集会の内容が、今後の糖尿病に対する理学療法の発展に少しでも寄与することができれば嬉しく思います。ぜひ多くの皆様方の参加をお待ちしております。よろしく願いいたします。